

浜松医科大学医学部附属病院皮膚科研修プログラム (浜松医科大学医学部附属病院)

1 はじめに

皮膚はしなやかな鎧でかつ免疫臓器です。外界から攻撃する化学物質、微生物、紫外線などを塞ぎ止めるバリアであるばかりでなく、そうした攻撃に対し免疫反応を起こして対応しようとしています。そうしたせめぎ合いの最前線で炎症性皮膚疾患は発生します。一方では刺激を受けやすい臓器であるからこそ、いろいろな腫瘍性皮膚疾患が発生します。また皮膚は肉眼で見えるという特殊性を持った臓器です。従って皮膚病の大半はすぐさま眼に飛び込んで来ます。



こうしたダイナミックな疾患の起こり立つ“現場”を目の当たりにするというのは、皮膚科という科の大きな特徴となっています。皮膚科のネットワークプログラムは全県版です。それは、皮膚科では基本的に全県下の研修施設が同じ学会、医会、勉強会といった組織で後期臨床研修（専門医養成研修）、取得後教育を行っているからです。浜松医大から出向して各病院での研修を行っている場合が多いですが、現地採用性も導入しています。日本皮膚科学会の専門医資格では「大学病院で1年以上勤務すること」が要件となっており、これを満たすことが挙げられます。たとえ「現地採用型」であっても、少なくとも1年間は大学病院で研修することが必要ですのでそれを条件にすることが必須となります。

静岡県には、浜松医大の派遣病院以外に、それ以外の大学からの派遣によって、成り立っている基幹病院皮膚科もあります。西から、静岡市立清水病院、順天堂大学医学部附属静岡病院、国際医療福祉大学熱海病院がそれにあたります。こうした病院とも連携を維持していることも付記いたします。

プログラム統括責任者 浜松医科大学皮膚科学講座 教授 戸倉 新樹

2 目的

皮膚科は、皮膚という臓器に専門性を特化しています。この点は臓器別に分けられた他の診療科と同じではありますが、皮膚科では、子供から老人まで、視診から病理診断まで、内科的から外科的治療まで行います。そのため、多様な患者さんを最初から最後まで責任をもって診ることができます。また、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹のような炎症性皮膚疾患から、白癬や蜂窩織炎という感染症、強皮症のような膠原病、水疱症のような自己免疫疾患、悪性黒色腫やリンパ腫といった悪性腫瘍、さらには美容皮膚科といった多岐にわたる疾患や治療手技を扱うことも特徴の一つです。

もう一つの大きな特徴として将来の選択肢の広さが挙げられます。皆さんは医師として、昼夜問わず臨床に打ち込みたい、研究もやって病気を解明し新たな治療法を見出したい、留学をしたい、出産して子育てもしたい、開業したい、などいろいろな夢や希望があると思います。その点、皮膚科はさまざまなライフスタイルを選ぶことが可能です。

3 研修病院群

(1) 専門研修基幹施設 浜松医科大学附属病院皮膚科

(2) 専門研修連携施設

JA静岡厚生連遠州病院、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松医療センター、磐田市立総合病院、中東遠総合医療センター、市立島田市民病院、藤枝市立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、富士市立中央病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、静岡医療センター

4 専攻医受入数 6名

5 研修期間 5年間

6 研修計画（例）

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	連携	連携	連携	連携
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	基幹	連携	連携	基幹	基幹
d	連携	連携	基幹	基幹	連携
e	連携	基幹	基幹	連携	連携
f	連携	連携	連携	連携	基幹
g	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)
h	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

7 問い合わせ先

浜松医科大学皮膚科

〒431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1

TEL 053-435-2303 FAX 053-435-2368